

新しいエルサレム

シリーズ～終末を生きる～
ヨハネの黙示録21:9～22:5

先週までのおさらい

◆ 大患難のステージ

- ◆ 天変地異・戦争・疫病・飢饉
- ◆ 「二匹の獣」による支配＞666の刻印
- ◆ 多くの殉教者：最後の悔い改めのチャンス

◆ 清算のステージ

- ◆ 「二匹の獣」が裁かれ、サタンは閉じ込められる
- ◆ 「千年期」：再臨のキリストと復活した殉教者による現世界最後の時代
- ◆ サタンによる最後の抵抗、裁き
- ◆ 全人類に対する最後の審判

◆ 新世界のステージ

ヨハネの黙示録21:9～22:5

さて、最後の七つの災いの満ちた七つの鉢を持つ七人の天使がいたが、その中の一人が来て、わたしに語りかけてこう言った。「ここへ来なさい。小羊の妻である花嫁を見せてあげよう。」この天使が、”霊”に満たされたわたしを大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のもとを離れて、天から下って来るのを見せた。都は神の栄光に輝いていた。その輝きは、最高の宝石のようであり、透き通った碧玉のようであった。都には、高い大きな城壁と十二の門があり、それらの門には十二人の天使がいて、名が刻みつけてあった。

イスラエルの子らの十二部族の名であった。東に三つの門、北に三つの門、南に三つの門、西に三つの門があった。都の城壁には十二の土台があつて、それには小羊の十二使徒の十二の名が刻みつけてあつた。わたしに語りかけた天使は、都とその門と城壁とを測るために、金の物差しを持っていた。この都は四角い形で、長さと同幅であつた。天使が物差しで都を測ると、一万二千スタディオンあつた。長さも幅も高さも同じである。また、城壁を測ると、百四十四ペキスであつた。これは人間の物差しによって測つたもので、天使が用いたものもこれである。都の城壁は碧玉で築かれ、都は透き通つたガラスのような純金であつた。都の城壁の土台石は、あらゆる宝石で飾られていた。

第一の土台石は碧玉、第二はサファイア、第三はめのう、第四はエメラルド、第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七はかんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十はひすい、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。また、十二の門は十二の真珠であって、どの門もそれぞれ一個の真珠でできていた。都の大通りは、透き通ったガラスのような純金であった。

わたしは、都の中に神殿を見なかった。全能者である神、主と小羊とが都の神殿だからである。この都には、それを照らす太陽も月も、必要でない。神の栄光が都を照らしており、小羊が都の明かりだからである。諸国の民は、都の光の中を歩き、地上の王たちは、自分たちの栄光を携えて、都に来る。都の門は、一日中決して閉ざされない。そこには夜がないからである。

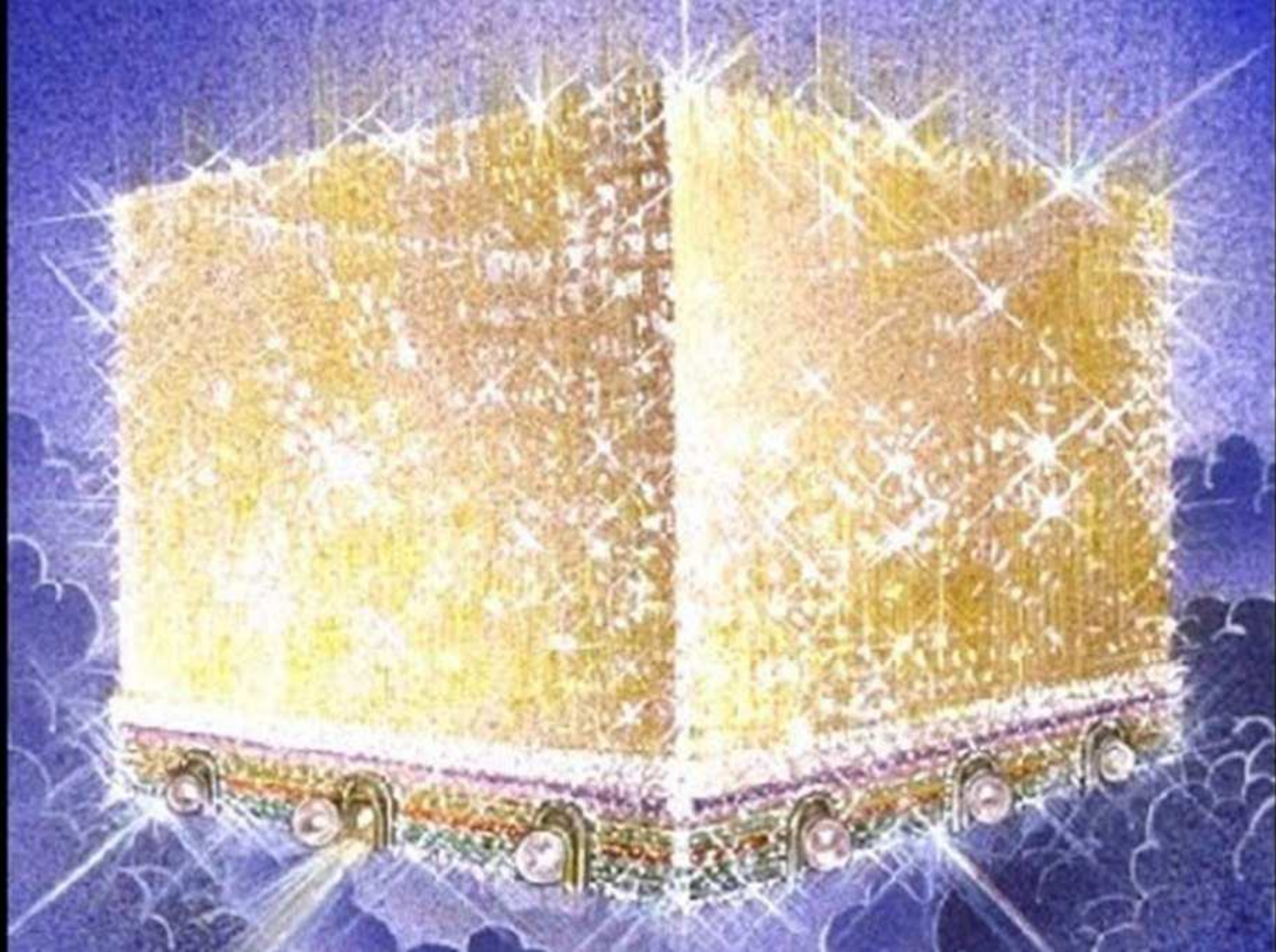
人々は、諸国の民の栄光と誉れとを携えて都に来る。しかし、汚れた者、忌まわしいことと偽りを行う者はだれ一人、決して都に入れない。小羊の命の書に名が書いてある者だけが入れられる。天使はまた、神と小羊の玉座から流れ出て、水晶のように輝く命の水の川をわたしに見せた。川は、都の大通りの中央を流れ、その両岸には命の木があって、年に十二回実を結び、毎月実をみのらせる。そして、その木の葉は諸国の民の病を治す。もはや、呪われるものは何一つない。神と小羊の玉座が都にあって、神の僕たちは神を礼拝し、御顔を仰ぎ見る。彼らの額には、神の名が記されている。もはや、夜はなく、ともし火の光も太陽の光も要らない。神である主が僕たちを照らし、彼らは世々限りなく統治するからである。

「新しいエルサレム」

- ◆ 「新しい天と新しい地」の象徴的场所
 - ◆ 「小羊の妻である花嫁」=新しい教会

新しいエルサレム			
全体	宝石	1万2千スタディオン	
大通り	純金		
城壁	碧玉	144ペキス	
土台	宝石		12使徒の名
門	真珠		12部族の名







新しいエルサレム

◆ 神殿がない

- ◆ 「全能者である神、主と小羊とが都の神殿だからである。」

◆ 太陽も月も(夜も)ない

- ◆ 「神の栄光が都を照らしており、小羊が都の明かりだからである。」

◆ そこに入れる人は限られている

- ◆ 「人々は、諸国の民の栄光と誉れとを携えて都に来る。しかし、汚れた者、忌まわしいことと偽りを行う者はだれ一人、決して都に入れな**い**。小羊の命の書に名が書いてある者だけが入れる。」

新しいエルサレム

◆「命の水の川」「命の木」

- ◆「天使はまた、…水晶のように輝く**命の水の川**をわたしに見せた。川は、都の大通りの中央を流れ、その両岸には**命の木**があって、年に十二回実を結び、毎月実をみのらせる。そして、その**木の葉は諸国の民の病を治す。**」

◆住民の額には神の名が記される

- ◆「神の僕たちは神を礼拝し、御顔を仰ぎ見る。**彼らの額には、神の名が記されている。**」
- ◆大患難期にはサタンに従う者に「666」が刻まれた

「新しいエルサレム」の意味

- ◆ 描かれているとおりの場所が出現するわけではない!
 - ◆ あくまでも“象徴(たとえ)”である
- ◆ 現世界との連続性
 - ◆ 「12部族の名」「12使徒の名」
 - ◆ 「命の書に名の記された者」
- ◆ 現世界との非連続性
 - ◆ **完全性**: 形・数値・素材・夜(闇)がない
 - ◆ **永遠の命**: 命の水の川・命の木(死がない)
 - ◆ **神と人との合一**: 神殿がない・御顔を(直接)仰ぎ見る・神の名が記される(分離がない)

新しいエルサレムを目指す

「もはや、夜はなく、ともし火の光も太陽の光も要らない。神である主が僕たちを照らし、彼らは世々限りなく統治するからである。」